

主演 イレーネ・パパス

クラウディア・オハナ

マイケル・ランズデール

ルーフス

レ・フィルム・ド・トリアングル作品 フランス文化省協力

無垢なエレンディラと無情な祖母の信じがたい悲惨の物語

エレンディラ

原作・シナリオ G・ガルシア・マルケス

監督 リュイ・グエツラ

1982年度 ノーベル文学賞受賞



製作 アラン・ケフェリアン

共演 オリビエ・ウエー／ブランカ・ゲーラ／エルネスト・ゴメス・クルズ／ビエール・ヴァネック(特別出演)

美術 ビエール・カデュー／映像 デニスクレルヴァル／編集 クヌート・ベルティエ／音楽 モーリス・レククル 原作出版 サンリオ

制作 ゴンザレス・マルティネス／オーソン・ロフイエル フランス・メキシコ・西ドイツ合作

’83カンヌ映画祭正式出品作 配給 パルコ

PARCO

昔、カリブのある村で遊び暮らしていた頃、11才の少女がその祖母のような
老いた女に売春を強いられているのを私は見た。

彼らは、守護聖人の祝日を追って村から村へ、酒場や楽団をひきつれて
テントで移動していた。

私はその頃16才で、物書きになろうと思っていた。

その少女は私の思い出せるかぎり、最もかわいそうな存在で、自分のやって
いる仕事と彼女の様子は全くそぐわなかった。自分が何をやっているのか全
く知らないように見え、しっかり覚えたひとつのレッスンをただくり返しているかの
ようだった。

彼らの、村での滞在は3日だけだったが、その記憶は私の中に鮮明に残っ
た。しかし私は小説としてより、映像のドラマとして思い描いた。これは文学と
いうより映画で、だから私はシナリオの形で書いたのだ。小説にすることを考
えたのは、ずっと後のことだった。少女の名は最後に浮んだ。私はその名を
メキシコで耳にした。——エレンディラ。

'82秋、世界中の友人が私のノーベル賞受賞を祝ってくれたとき、私の関
心は全て、メキシコのサン・ルイ・ポトジから70km離れた荒地に向けられてい
た。ちょうどそこではエレンディラの撮影が始められていたのだ。

GABRIEL

ガブリエル・ガルシア＝マルケス

あらすじ

エレンディラは14才になっただけ。彼女は
荒野にぼつんと建った薄暗く雑然とした家に
祖母と二人で住んでいた。その家は、気狂い
じみた家具、涙形のシャンデリア、大理石の
天使などであふれている。伝説的密輸業者だ
った夫の死後、老婆は14人の裸足の召使を解
雇したが、いまだ大きな夢を見つづけていた。
ある夜、昼間の煩しい仕事に疲れ果てたエレ
ンディラは、ろうそくの火を消し忘れ、眠り
に落ちた。昏間から吹き始めた、彼女にとつ
ては不運の風が、部屋のカーテンをふくらま
せ、家を炎に包んだ。

——可愛そうに

老婆は嘆息した

——お前の人生すべてでも、これを償うには
足りないんだよ……

老婆はエレンディラを村の食料品屋の男やも
めのところへ連れて行き、200ペソと、旅行の
ための食料3日分とひきかえに少女の身体を
売る。少女に売春をさせて、国中を回ろうと
決めていたのだ。行くささぎの村々でテン
トを張り、エレンディラはその中でおとなし
く横たわった。通りがかりの密輸業者や無
籍者、脱走兵たちが、灼熱の太陽の下で列を
つくって順番を待った。噂は、砂漠のすみず
みにまで伝わり、男たちは、名高いエレンデ
ィラを抱こうと遠くからもやってくるようにな
った。ある夜老婆は、最後の客を追い返し
た後の暗かりに、天使の笑みを浮べたひとり
の青年に気付く。

——名前は？

——ユリシス

——翼を持って、明日またおいで

そして……

「エレンディラ」再ロードショー

●11月1日(土)～9日(日) ●渋谷パルコパート3・8F

●特別鑑賞券 ¥1,200 発売中！ (当日・一般1,500円、学生1,300円)

PARCO
SPACE PART 3

上映時間 11:00 1:00 3:00 5:00 7:00

●お問い合わせ = (477) 5858

11月29日よりロードショー「燃えつきるまで」監督:ギリアン・アームストロング

●渋谷パルコパート3・8Fスペースパート3

●お問い合わせ = (477) 5858

出演 = メル・ギブソン / ダイアン・キートン